



新居 努

Tsutomu Arai

試験施設運営委員会

株式会社大林組

【経歴】

1964年 大阪府生まれ
1988年 大阪大学 工学部建築工学科 卒業
1990年 大阪大学大学院 工学研究科
建築工学専攻 修了
1990年 株式会社大林組 入社

【主な活動】

日本建設業連合会、日本鋼構造協会

【コメント】

1995年の阪神大震災では想像していなかったような構造被害を目の当たりにし、構造設計者として大きな衝撃を受けました。常に自然への畏怖の念を持つと同時に、技術で乗り越えていくことの重要性を痛感しました。E-Isolationはそのような世界の実現を大いに後押ししてくれると期待しています。



上田 博之

Hiroyuki Ueda

理事、試験施設運営委員会、施設活用部会

株式会社竹中工務店

【経歴】

1961年 兵庫県生まれ
1984年 京都大学 工学部建築学科 卒業
1986年 京都大学大学院 工学研究科
修士課程建築学専攻 修了
1986年 株式会社竹中工務店 入社

【主な活動】

日本建設業連合会 構造設計部会
日本建築学会 RC規準改定小委員会

【コメント】

阪神淡路大震災以降、免震建物が世の中に認知され、その後も大きな地震が起こる度に理解が進んできました。しかし、まだまだこれからです。E-Isolationがこれからの免制振建物の爆発的な普及に寄与することを望んでやみません。



吉敷 祥一

Shoichi Kishiki

試験施設運営委員会、試験機・計測システム研究委員会委員長

東京工業大学

【経歴】

1978年 埼玉県生まれ
2006年 東京工業大学大学院 修了
建築物理研究センター・助手(助教)
2011年 大阪工業大学 工学部建築学科・講師
2015年 東京工業大学
建築物理研究センター・准教授
2021年 東京工業大学
科学技術創成研究院・教授

【コメント】

免震・制振の研究テーマに精力的に取り組み、業界の活性化に繋がればと思っています。小さなことからコツコツと頑張ります。



郭 献群

Xianqun Guo

理事、試験施設運営委員会

株式会社構造計画研究所

【経歴】

1962年 中国厦門生まれ
1983年 大連理工大学 応用力学学科 卒業
1990年 筑波大学大学院
工学研究科博士課程修了・工学博士
1991年 株式会社構造計画研究所 入社

【コメント】

日本は免震・制振技術の研究と実装において独創性が顕著です。E-Isolationの完成により、新たな一歩を踏み出しました。免震・制振技術の高度化と普及を加速させ、日本はもちろん世界中の地震被害の低減に貢献する取り組みに尽力したいと思います。



黒川 泰嗣

Yasushi Kurokawa

理事、試験施設運営委員会、認証部会会長

鹿島建設株式会社

【経歴】

1959年 岐阜県生まれ
1978年 横浜国立大学 工学部建築学科 卒業
1984年 横浜国立大学大学院 工学研究科
建築学専攻 修了
1984年 鹿島建設株式会社 入社

【主な活動】

免震研究推進機構 理事、日本免震構造協会 理事
日本建設業連合会、日本鋼構造協会

【コメント】

免震研究推進機構 動的性能認証委員会の部会長を拝命しております。認証制度のあり方、認証の試験項目、認証条件のほか、実大免震動的試験機の有効な利用方法についても議論しています。



桑 素彦

Motohiko Kuwa

試験施設運営委員会

戸田建設株式会社

【経歴】

1997年 戸田建設株式会社 入社

【主な活動】

日本免震構造協会 設計小委員会

【コメント】

免震・制振は地震国の日本では安全・安心の暮らしを支える必須の技術だと思います。日ごろの構造設計業務では、できる限り免震・制振の普及に努めています。微力ではありますが更なる安全・安心に向けて一般社団法人免震研究推進機構の活動ができればと思います。



小坂橋 裕一

Yuichi Koitabashi

試験施設運営委員会

株式会社日建設計

【経歴】

1963年 東京生まれ
1986年 東京工業大学 工学部建築学科 卒業
1988年 東京工業大学大学院 理工学研究科
建築学専攻 修了
1988年 株式会社日建設計 入社

【主な活動】

日本建築構造技術者協会 法制委員会

【コメント】

一般の建築構造設計に加えて超高層中間層免震や倉庫の免震構造など免震建物を数多く設計してきました。これまでの設計経験を活かし一般の方々に免震の優位性もわかりやすく発信していきたいと考えます。



小林 秀雄

Hideo Kobayashi

試験施設運営委員会、施設活用部会部会長、会員部会、認証部会

株式会社日本設計

【経歴】

1962年 東京生まれ
1985年 千葉大学 建築工学科 卒業
1987年 千葉大学大学院 工学研究科
建築学専攻 修了
1987年 株式会社 日本設計 入社

【主な活動】

一般社団法人日本建築構造技術者協会 会長
一般社団法人日本免震構造協会

【コメント】

設計に関わる技術者として、限界状況における動的特性のスケール効果がE-Isolationの完成により明快になると思います。世界にも誇れるE-Isolationの活用により免震・制振部材の信頼性向上と技術の開発に弾みがつくことを確信しています。



近藤 明洋

Akihiro Kondo

試験施設運営委員会、認証部会

鹿島建設株式会社

【経歴】

1967年 静岡県生まれ
1990年 筑波大学 第三学群基礎工学類 卒業
1992年 筑波大学 工学研究科 前期課程 修了
1992年 鹿島建設株式会社 入社

【主な活動】

日本建築学会 免震構造小委員会

【コメント】

免震建物が1棟でも多く建設されるようになれば良いと思っています。



榎間 隆之

Takayuki Sakakima

理事、試験施設運営委員会、認証部会

清水建設株式会社

【経歴】

1962年 大阪生まれ
1986年 京都大学大学院 建築学専攻 修了
1986年 清水建設 入社

【コメント】

E-Isolationの活用で未知の事実が明らかになることにワクワクします。
一般社団法人免震研究推進機構の活動を通じて免震・制振への理解を深め、その良さを建築主に積極的にアピールしていきたいです。



佐野 剛志

Takeshi Sano

試験施設運営委員会、認証部会

株式会社 大林組

【経歴】

1964年 生まれ
1988年 東京理科大学 理工学部 建築学科 卒業
1990年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 修士課程 修了
1990年 株式会社 大林組 入社

【主な活動】

制振部材品質基準小委員会 摩擦ダンパーWG

【コメント】

一般社団法人免震研究推進機構の活動を通じ、社会の強靱化に貢献できればと思っています。



沢田 研自

Kenji Sawada

試験施設運営委員会、会員部会、事務局 総務企画担当

日本免震構造協会 非常勤顧問

【経歴】

1950年 東京生まれ
1974年 九州大学 工学部建築学科 卒業
1976年 九州大学大学院 建築学科 建築工学専攻 修了
1976年 株式会社熊谷組 入社
2014年 日本免震構造協会 専務理事
2022年 同上 非常勤顧問 現在に至る

【主な活動】

日本免震構造協会

【コメント】

免震研究推進機構理事会・評議員会担当、予算・決算・営業・総務・企画担当。免震・制振部材のデータ偽装事件を担当した経験から、第三者によるチェックシステムの重要性を痛感。E-Isolationの活用による免震・制振部材のより高度な性状の把握と新材の開発支援に興味あり。今後当該試験機にて多くの動的試験が行われることでJSILが発展して行くことを願っております。



篠崎 洋三

Yozo Shinozaki

理事、試験施設運営委員会委員長、会員部会、認証部会

大成建設株式会社

【主な活動】

日本免震構造協会 理事

【経歴】

1959年 福岡生まれ
1985年 東京工業大学 理工学研究科 修了
1985年 大成建設 入社

【コメント】

E-Isolationの企画・設計・建設に関わってきました。大学時代から免震構造に興味があり、将来日本中の建物すべてが免震構造になることを夢見ています。



杉浦 盛基

Shigeki Sugiura

試験施設運営委員会、施設活用部会

株式会社日建設計

【主な活動】

日本建築構造技術者協会 副会長

【経歴】

1968年 愛知県生まれ
1991年 名古屋工業大学 工学部
社会開発工学科 卒業
1991年 日建設計 入社

【コメント】

建物によりますが、多くの建物は地震に対応する上で免震・制振構造が有効です。免震・制振構造の信頼性を高めるには使用される部材の性能をきちんと把握することが重要です。各部材の性能をきちんと把握する上で大規模実験装置が必要になります。これを実現したE-Isolationを有効に活用する仕組みができると良いと思います。



高橋 良和

Yoshikazu Takahashi

試験施設運営委員会、ハイブリッド実験研究委員会委員長

京都大学

【経歴】

1970年 京都生まれ
1994年 京都大学 工学部土木工学科 卒業
1996年 京都大学大学院 工学研究科
土木工学専攻 修了
1996年 京都大学助手
2017年 同教授

【コメント】

SIP研究の研究責任者として研究開発取りまとめを担当し、土木橋梁分野の立場から試験施設運営委員会に参画しています。特にハイブリッドシミュレーション技術を推進してきましたので、免震・制振デバイスを含む構造全体系の挙動把握のためのE-Isolationの利用が進むことを期待しています。



高山 峯夫

Mineo Takayama

試験施設運営委員会、動的性能認証委員会

福岡大学

【経歴】

1960年 福岡県生まれ
1982年 福岡大学 工学部建築学科 卒業
1986年 東京大学 工学研究科 修了
1986年 福岡大学に勤務

【コメント】

多田英之先生の下で免震構造の研究開発に従事したのが1982年です。それから40年以上経過し、免震構造も当時と比べれば普及したと思います。ただ、もっと多くの建物に免震構造が採用されることで地震災害を減らしたいと考えています。E-Isolationが免震構造の普及と信頼性の向上につながることを期待しています。



田村 和夫

Kazuo Tamura

試験施設運営委員会、動的性能認証委員会委員長

神奈川大学

【経歴】

1952年 東京生まれ
1975年 東京工業大学 工学部建築学科 卒業
1975年 清水建設株式会社 入社
2011年 千葉工業大学着任(2018年退職)

【主な活動】

日本免震構造協会 耐風設計部会

【コメント】

一般社団法人免震研究推進機構では、動的性能試験委員会委員長を拝命しています。免震構造との関わりについては1985年頃に積層ゴムの性能に驚き検討し始めたのが最初です。実大の免震・制振部材の動的な性能試験が行える、画期的な試験機が、多様な利用用途に活用されることを期待しています。



土橋 徹

Toru Tsuchihashi

理事、試験施設運営委員会、会員部会会長

森ビル株式会社

【経歴】

1959年 生まれ
1984年 日本大学 理工学部
建築学科 卒業
1984年 森ビル株式会社 入社

【コメント】

会員部会では施設や活動状況を広く業界に説明し、理解と参加を募っています。世界トップクラスの精度をもつ実大免震試験機(E-Isolation)を用いて免震や制振装置の性能が第三者として評価されることに大きく賛同します。事業者としてもテナントや居住者の方々に安心してもらうために第三者試験の意義は大きく、日本に根付かせなければと考えています。



中川 健太郎

Kentaro Nakagawa

試験施設運営委員会

清水建設株式会社

【経歴】

1966年 神奈川県生まれ
1990年 東京工業大学 工学部建築学科 卒業
1992年 東京工業大学大学院
理工学研究科建築学専攻 修了
1992年 清水建設株式会社 入社

【主な活動】

日本建築学会 理事、日本免震構造協会 理事
建築基礎・地盤技術高度化推進協議会 理事

【コメント】

振り返り見ると、私が設計した建物の半数が免震建物で残りの半数が制振建物でした。免震制振技術は現代の性能設計には欠かせない技術となっています。これまでそのデバイスの性能をダイレクトに確認することができずフラストレーションが溜まっていた。E-Isolationのおかげで漸く自身の目で見て納得することができ、今後の性能設計をさらに飛躍させる期待が膨らみました。



中西 力

Tsutomu Nakanishi

理事、試験施設運営委員会、施設活用部会

スタートCAM株式会社 取締役

【経歴】

1970年 富山県生まれ
1995年 名古屋工業大学大学院
建築学専攻 修了
1995年 清水建設株式会社 入社
2009年 株式会社Nikon 入社
2012年 スタートCAM株式会社 入社

【コメント】

大学3年の時に免震・制振構造の存在を知って衝撃を受けてから33年。阪神大震災の年に構造設計職に就き、和田先生・竹内先生との「安全安震館」の構造設計経験を通じて、「紙と鉛筆だけではない、現物・現場主義の大切さ」「真剣に考え抜いた技術者同士の協業により生まれる新しい世界」等教えていただいたことが、E-Isolationに結集されていると感じています。世界へ、次世代の構造設計者・技術者へ微力ながら「Japan Style」「Made In Japan」のすばらしさを伝えていきたいと考えております。



中村 昌弘
Masahiro Nakamura

試験施設運営委員会、認証部会

株式会社ブリヂストン

【経歴】

1992年 東海大学工学部 卒業
1992年 株式会社ブリヂストン 入社
2010年 北見工業大学 工学部大学院 修了

【主な活動】

ISO/TC45国内審議委員会委員
免震支承鉛直特性検討WG委員等

【コメント】

建物や構造物の免震化比率を倍増させ免制震市場が拡大することで業界の盛り上がりにつながり、レジリエンス社会実現に貢献できればと思っています。



濱 智貴
Tomotaka Hama

認証部会

清水建設株式会社

【経歴】

1974年 神奈川県生まれ
1997年 早稲田大学 理工学部建築学科 卒業
1999年 早稲田大学大学院 理工学研究科
建設工学専攻 修了

【主な活動】

免震研究推進機構
各種技術検討WG等

【コメント】

一般社団法人免震研究推進機構では動的性能認証委員会にて試験体アタッチメントの検討等を担当しております。E-Isolationにおける動的実大試験がデバイスの品質管理や新規開発のためのツールとして広く浸透し、我が国の免制振技術のさらなる発展に寄与するよう、微力ながら努めて参りたいと考えております。



林崎 正伸
Masanobu Hayashizaki

試験施設運営委員会、事務局研究室長

免震研究推進機構

【経歴】

1977年 7月生まれ
2004年 工学院大学大学院 工学研究科
建築学専攻 修了
2004年 建材試験センター 入社
2023年 免震研究推進機構へ出向

【主な活動】

免震研究推進機構

【コメント】

免震制振デバイスの試験業務を安全かつ円滑に進められるよう努力します。



前川 利雄
Toshio Maegawa

試験施設運営委員会

株式会社熊谷組

【経歴】

1965年 滋賀県生まれ
1988年 筑波大学 第3学群基礎工学類 卒業
1990年 筑波大学大学院 理工学研究科 修了
1990年 株式会社熊谷組 入社

【主な活動】

日本建築学会、日本地震工学会

【コメント】

技術研究所防災技術研究室に所属し、主に建築構造の技術開発に取り組んでいます。設計用入力地震動の研究にも興味があります。動的な設計法を積極的に取り入れた新しい耐震構造を地震国日本において築き上げるためにE-Isolationをフル活用する事ができたら幸せだな、と思っています。



味野 朋裕

Tomohiro Mino

試験施設運営委員会

倉敷化工株式会社

【経歴】

1986年 岡山県倉敷市生まれ
2011年 岡山大学大学院 自然科学研究科
物質生命工学専攻 修了
2011年 倉敷化工株式会社 入社

【コメント】

実大免震試験の反力壁/反力梁間に、弊社中心孔のない天然ゴム系積層ゴム支承が計12台設置されています。日本の免震制振技術の発展に寄与するこのすばらしいプロジェクトに関わることができ、大変光栄に感じております。免震制振業界がさらに発展しますように。



宮原 貴昭

Takaaki Miyabara

試験施設運営委員会、会員部会、認証部会、事務局長

免震研究推進機構 事務局

【経歴】

1961年 山梨県生まれ
1985年 東京工業大学 工学部
建築学科 卒業
1987年 東京工業大学 理工学研究科
建築学専攻 修了

【コメント】

事務局に所属して、免震研究推進機構の運営の一端を担いながら、皆様の活動を補助していけたらと思っています。免震・制振の実務設計の経験は少ないですが、免震研究推進機構での実験・まとめをスムーズに行えたら良いとあわせて考えています。



山中 昌之

Masayuki Yamana

試験施設運営委員会

日本建築センター

【経歴】

1955年 鳥取県生まれ
1979年 京都大学 工学部建築学科 卒業
1981年 京都大学大学院 工学研究科 修了
1981年 株式会社大林組 入社
2022年 一般財団法人日本建築センター 入団

【主な活動】

日本免震構造協会 技術委員会委員
免震・制振材料問題対応委員会委員

【コメント】

今年は能登半島地震で年が明けましたが、地震被害を見るたびに建物の免震化、制震化の重要性を痛感します。設計する側から審査する側に移り、新しい立場で免震の普及に対して貢献できるように考えていきたいと思っています。



山本 雅史

Masashi Yamamoto

認証部会

株式会社竹中工務店

【経歴】

1986年 京都大学 工学部建築学科 卒業
1988年 京都大学大学院 工学研究科
建築学専攻 修了
1988年 株式会社竹中工務店 入社

【主な活動】

日本建築学会、日本地震工学会
日本免震構造協会

【コメント】

世界をリードする免震・制振技術！と世界から認められるよう、活動にかかわっていきたく思います。



渡辺 厚

Atsushi Watanabe

試験施設運営委員会、認証部会

日鉄エンジニアリング株式会社

【経歴】

1961年 愛知県豊川市生まれ
1986年 東京工業大学 理工学研究科
建築学専攻 修了
1986年 新日鉄 入社

【主な活動】

日本免震構造協会 免震部材委員会

【コメント】

地震による建物被害を低減するために、病院などの重要な建物を中心に免震建物がもっと広がることを願っています。そのためには特定行政庁による容積率上乘せ条例など、いろいろなアイデアを実現していくことが重要かと思います。



和田 章

Akira Wada

代表理事、実大免震試験施設総合委員会委員長、試験施設運営委員会、会員部会

東京工業大学名誉教授

【経歴】

1946年 岡山県生まれ
1968年 東京工業大学 卒業
1970年 日建設計入社
1982年 東京工業大学助教授
1989年 同教授
2011年 日本建築学会会長
2014年 日本免震構造協会会長

【主な活動】

<https://www.akira-wada.com/index.html>

【コメント】

五十年ほどの建築の寿命の中で二、三度起こる中小地震動に対して小さなひび割れを許しつつ建築の継続利用を望むことは、すべての人々の同意が得られるはずである。問題は数百年に一度起こるとされる大地震動であり、現在の考えは人命を守るために倒壊は起こさせないことを前提に、構造物の塑性化を許容した現実的な設計が行われ、地震後には使えなくなり取り壊すことも受け入れている。数百年に一度のような大地震は滅多に起こらず、建物の寿命中には襲われないと楽観的に考える個々の建築主にとって合理的な考えである。

この考え方により、日本中の村やまち都市に無数の建築が建てられ、建て直されていく。そしていつかどこかに大地震動が襲う。全国で考えるとこれは五百年に一度ではなく、数年、十年に一度になる。被災したまちの多くの建物が被害を受け、暮らしや社会活動が止まってしまう。人命を失うだけでなく、復旧復興に多大な労力がかかる。我々は耐震設計を考えると国全体、世界全体に思いを馳せなければならない。

大地震後にも続けて使える免震構造・制振構造に期待すべきである。これらは建築設計の初期から十分議論して良い設計を進めれば、基礎固定で大きな塑性変形を考慮した構造物より、設計は容易で工事費も安価になる。これからは、E-Isolationを活用して免震部材・制振部材の動的性能をとらえ、信頼性の高い免震構造・制振構造を次々に建てて欲しい。